

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284081

研究課題名(和文)日独語比較による空間表現の類型に関する総合的研究

研究課題名(英文)The study on the typology of spatial expressions by comparing Japanese and German

研究代表者

小川 暁夫 (OGAWA, Akio)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：00204066

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,100,000円

研究成果の概要(和文)：空間表現を扱う従来の日独語対照研究は類似の品詞間、構文間、またテキスト構成間の突き合わせを行い、そこに見られる共通点・相違点を指摘するに留まるが多かったが、本研究は我々の認知的な空間把握の在り方が一連の文法カテゴリー、諸々の構文、様々なテキストレベルを横断して顕在化しているとする立場に立脚して研究を行い、従来の対照言語学の枠を超えた機能類型論の開発の基礎を築くことができた。

研究成果の概要(英文)：In previous contrastive studies between Japanese and German on spatial expressions, only similar part of speech, constructions, and text compositions were mainly compared and some similarities or differences were indicated as a result. In this study, this approach was reconsidered and the research was conducted based on the idea that spatial conceptualization manifests itself across a range of grammatical categories, constructions and texts and some foundations for the development of functional typology beyond the previous contrastive studies were established for future research.

研究分野：ドイツ語学、言語類型論、対照言語学

キーワード：ドイツ語 日本語 空間把握 言語化 対照言語学

## 1 . 研究開始当初の背景

「人がいかに空間を把握し、言語化するか」は基礎語彙レベルから始まり様々な文法現象、さらには発話状況や比喻表現に至るまで言語システム全体を規定するきわめて根幹的かつ複層的な問題群を成す。空間把握に関する領域ではこれまで前置詞・後置詞の研究 ( Schröder 1986, Wunderlich 1984, Yoshida 2011, Cheng 2011 ), 指示・照応の研究 ( Tanaka 2011 ), 「視点」( 久野 1978 ), 「場所理論」に基づく文法研究 ( Anderson 1971 ), 近年の「移動の類型」研究 ( 田中・松本 1997 ), 「構文文法」研究 ( Goldberg 1995, Lasch & Ziem 2011, 山梨 2009 ), 従来のメタファー・メトニミーの研究 ( Lakoff & Johnson 1980 ), 近年の「文法化」現象の解明 ( Traugott & Heine (eds.) 1991, Diewald 1997 ), さらに人称性・非人称性の問題など、豊かな研究蓄積がある。しかし日独語に関する従来の研究は、ともすれば個別の対象領域 ( 例えば日本語の空間名詞、ドイツ語の前置詞 ) に限定され、またそれに呼応して日独語対照研究は同一あるいは類似のカテゴリー間 ( 例えば「指示詞」間 ), 構文間 ( 例えば「移動構文」間 ), またテキスト構成間 ( 例えば小説の原文と翻訳の間 ) の単なる突き合わせ、共通点・相違点の指摘に留っていた。

## 2 . 研究の目的

本研究は空間把握の在り方が一連の文法カテゴリー、諸々の構文、様々なテキストレベルを横断・通底して顕在化 ( あるいは潜在化 ) しているとする相関的・全体的 ( holistic ) な言語観に立脚して ( Croft 1990, 2001, König 2002, Leiss 1992, 2000 ), 「総合的」な研究を行うことを目的とし、機能類型論的観点からの日独語の比較を通じて、空間把握の在り方がいかなる文法現象に顕現し、それらがどのような連動関係にあるのかに関して言語普遍的パラメータと言語個別の変異を抽出する

ことを目指した。その際、(1) 形態・統語現象 ( 前置詞, 前綴り, 格助詞, 空間名詞 ), (2) 意味・語用論的現象 ( 指示詞, 人称詞, 代名詞, 相関詞 ), (3) 派生・応用現象 ( メタファー, メトニミー文法化, 視点 ) を三つの柱とし、研究代表者と研究分担者それぞれが日独語における空間表現の実証的データを収集・分析しつつ、各言語の相関的・全体的な類型の構築への仮説を提示して、その仮説を検証・精緻化することで、従来の対照言語学の枠を超えた機能類型論の開発に向けてのパイロットスタディを構築することを目的とした。

## 3 . 研究の方法

本研究では日独語の空間表現の形態的ならびに統語的な領域、構文ならびにテキスト・談話構成に関する領域、歴史変異ならびに比喻的用法に関する領域を調査し、研究代表者と各研究分担者が以上の三領域の少なくとも二つの領域をカバーする体制で研究を進めた。研究代表者と研究分担者は系統的・類型的に異質とされる日独語の比較を通じて、各自が個別言語の特徴を形成する原理の解明を目指して研究を進める方法をとった。また若手研究者を積極的に登用し、本研究課題に通暁したドイツ側研究者と緊密に連携をとり、国際的な研究体制をとることを目指した。研究初年度は、日独両語における空間表現についての先行研究を確認しながら、形態・統語的な特徴、テキスト・談話機能、歴史的・認知的な意味用法の展開、それぞれの領域についてデータを収集し、分析・記述を行った。次年度以降は実証的なデータの収集・整理を進め、分析を精密化した。空間把握の在り方に関しては、各言語の形態・統語的な特徴に強く反映しているという理論的仮説をさらに実質化させるべく、前置詞、格表示、分離動詞 ( ドイツ語 ), 複合動詞 ( 日本語, ドイツ語 ), 形容詞, 副詞などの日独

語対照分析を推進し、その相違を決定する要因、ならびにそれらを背後から司る共通性を探った。また「空間把握が言語のテキスト・談話構成にどのような影響を与えているのか」という問題についても、日独両言語の実際のテキストや談話を分析することによって考察を進めた。その結果、従来の経験的・実証的な学としての対照言語学のパラダイム転回をはじめ、認知科学や文化記号論など隣接分野との学際的研究、また外国語教育への応用を視野に入れた基礎研究の第一歩を踏み出すことができた。

#### 4. 研究成果

平成 25 年度は中間成果の公表、関係諸氏との意見交換を日本、ドイツ、スイスにて行った。その主なものは次である。(1) 2013 年度日本独文学会・春季研究発表会にてシンポジウム『ドイツ語研究に今日的自律性はあるのか - 方法と方法論に関する考察』を開催した(2013 年 5 月, 東京外国語大学)。(2) ベルリン自由大学に出張し、空間表現の対照研究の第一人者であるマキシ・クラウゼ教授と日独語共同研究の構想を検討した(2013 年 8 月, ベルリン)。(3) 研究代表者は日独文化研究所にてドイツ語の指示詞 *es* が広く空間世界を指示する有り様を哲学・心理学など学際領域も射程に入れて論じた(2013 年 12 月, 京都)。(4) 再度ベルリン自由大学にてクラウゼ教授と研究内容を深めるとともに、チューリッヒ大学にてドイツ語統語論・意味論の代表的研究者であるクリスタ・デュアシャイト教授と意見交換を行った(2014 年 1 月, ベルリン, チューリッヒ)。(5) ドイツ・フンボルト財団の支援を受け、国際集会『比べること、同じであること - 人文科学の学際シンポジウム』を運営し、講演を行うとともに、日独の研究者諸氏と討論・意見交換を行った。

平成 26 年度は前年度の成果を受け、研究活動を推進した。研究代表者、研究分担者が各自、研究成果を印刷物あるいは口頭発表の

形で日本、ドイツ、オーストリアにて公にした。全体の研究実績としては 2015 年 3 月にドイツ・ハノーファー大学にて行われた国際会議「北ドイツ言語学コロキウム」にて研究代表者、研究分担者が参集し、本研究課題について多角的に成果報告を行った(そのための準備会を大園正彦の所属する静岡大学で実施した)。

平成 27 年度は研究代表者・研究分担者が国内外で学会発表・招待講演を行うとともに、印刷物を刊行した。特に 2015 年 5 月には日本独文学会研究発表会において研究代表者・研究分担者が中心となり「ドイツ語と日本語に現れる空間把握 - 認知と類型の関係を問う」を企画し、口頭発表を行った。その成果はさらに印刷物として刊行された。また同年 8 月にはミュンヘン大学での日独語対照ワークショップ「日本語とドイツ語における文法と語用の構成」において研究代表者・研究分担者が招待講演を行った。それ以外にも、各自が本研究課題に関連するテーマでさまざまな形で公にした。

平成 28 年度は本研究課題の成果を内外で印刷物として発信した。一つには、研究分担者である宮下を編者として『ドイツ語と日本語に現れる空間把握—認知と類型の関係を問う』(日本独文学会研究叢書 112)を刊行した。これには研究代表者の小川、研究分担者田中、宮下、藤縄、大園が寄稿した。外部から仁科陽江、中村芳久という専門家 2 氏の寄稿も加わっている。二つ目は、小川を編者としてドイツの言語学専門出版 Stauffenburg から『Raumerfassung - Deutsch im Kontrast』を叢書 Sprachkontraste und Sprachbewusstsein の第 3 巻として刊行した。これには、小川、田中、宮下、藤縄、大園、ルスターホルツ(研究代表者・研究分担者全員)が寄稿している。その他にも、Per Baerentzen(デンマーク)、Maxi Krause(フランス)、Michail Kotin(ポーランド)、Irene Doval Reixa(スペイン)など国際

的に最先端で活躍する言語学者の論文も掲載した。さらには仁科陽江, 岡本順治, 山下仁といったベテラン研究者や段上佳代, 和田資康といった若手研究者の寄稿も含め, 本研究課題の最終的な成果として纏めた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Ogawa, Akio, Morph und Amorph. Nur da wo du bist da ist nichts, Valtolina, A: & Braun, M. (eds.), Am Scheideweg der Sprachen. Die poetischen Migrationen von Yoko Tawada, Tübingen: Stauffenburg, 査読有, 2016, pp.105-112

小川暁夫, 言語のタイプを決めるもの—普遍原則から個別類型へ, 文明と哲学, 査読無, 第8号, 2016, pp. 93-108

Miyashita, Hiroyuki, Die Interaktion zwischen Verbsemantik und Partikel-/Präfixsemantik: Eine Fallstudie zu über, Japanische Gesellschaft für Germanistik (ed.), Germanistische Soziolinguistik und Jugendsprachenforschung, München: iudicium, 査読有, 2016, pp.89-108.

Ogawa, Akio, Entitäres und Situatives, Festschrift für Manfred Kienpointner, 査読有, 2015, pp.345-354.

小川暁夫, Es の宇宙—言い得ないものが言葉になる時, 文明と哲学, 査読有, 第7号, 2015, pp.183-190

Ogawa, Akio, Valenzerweiterung revidiert, Linguistische Berichte Sonderheft, 査読有, 第20号, 2015, 33-45.

Fujinawa, Yasuhiro, Zur Kodierung der externen Possession im deutsch-japanischen Kontrast, Linguistische Berichte Sonderheft, 査読有, 第20号, 2015, pp.73-95.

Tanaka, Shin, Kasualternation und Perspektivenwechsel im deutsch-japanischen Kontrast, Linguistische Berichte Sonderheft, 査読有, 第20号, 2015, pp.97-109.

[学会発表](計14件)

Fujinawa, Yasuhiro, Kopula und Lokalisierungsverben im japanisch-deutschen Kontrast, Japanisch-deutscher Workshop Linguistik: Die Architektur von Grammatik und

Pragmatik im Japanischen und Deutschen, ミュンヘン大学(ドイツ), 2015年8月22日

Ogawa, Akio, Funktionaltypologische Untersuchung zur Raumwahrnehmung, Japanisch-deutscher Workshop Linguistik: Die Architektur von Grammatik und Pragmatik im Japanischen und Deutschen, ミュンヘン大学(ドイツ), 2015年8月21日

小川暁夫, 空間把握の類型化に向けて, 日本独文学会シンポジウム, 武蔵大学(東京都・練馬区), 2015年5月30日

藤縄康弘, 品詞と空間把握の日独比較, 日本独文学会シンポジウム, 武蔵大学(東京都・練馬区), 2015年5月30日

宮下博幸, 動詞形態と空間把握, 日本独文学会シンポジウム, 武蔵大学(東京都・練馬区), 2015年5月30日

大園正彦, 空間把握と間主観性, 日本独文学会シンポジウム, 武蔵大学(東京都・練馬区), 2015年5月30日

Fujinawa, Yasuhiro, Wortarten und Raumkonzepte im deutsch-japanischen Vergleich, Norddeutsches Linguistisches Kolloquium, ハノーファー大学(ドイツ), 2015年3月28日

Tanaka, Shin, Kasus und Raumwahrnehmung im Sprachvergleich, Norddeutsches Linguistisches Kolloquium, ハノーファー大学(ドイツ), 2015年3月28日

Ozono, Masahiko, Intersubjektivität und Raumwahrnehmung, Norddeutsches Linguistisches Kolloquium, ハノーファー大学(ドイツ), 2015年3月28日

Miyashita, Hiroyuki, Partikelverben im Deutschen und Verbserialisierungen im Japanischen: Eine kontrastive Betrachtung der semantisch entsprechenden Konstruktionen, Norddeutsches Linguistisches Kolloquium, ハノーファー大学(ドイツ), 2015年3月27日

Ogawa, Akio, Konstruktion und Wahrnehmung: Absentiv, Norddeutsches Linguistisches Kolloquium, ハノーファー大学(ドイツ), 2015年3月26日

Miyashita, Hiroyuki, Die semantische Interaktion bei Präfix- und Partikelverben mit über, 日本独文学会第42回語学ゼミナール, 生産性国際交流センター(神奈川県・三浦郡), 2014年9月1日

Ogawa, Akio, Deutsch-Japanisch kontrastiv,

インスブルック大学言語学シンポジウム, イン  
ンスブルック大学(オーストリア), 2014年  
6月10日

Ogawa, Akio, Es dreht sich um es,  
Linguistischer Arbeitskreis Innsbruck, インス  
ブルック大学(オーストリア), 2014年4月29  
日

〔図書〕(計2件)

Ogawa, Akio (ed.), Stauffenburg Verlag,  
Raumerfassung – Deutsch im Kontrast, 2017,  
236

宮下博幸(編), 日本独文学会, ドイツ語  
と日本語に現れる空間把握—認知と類型の  
関係を問う(日本独文学会研究叢書 112),  
2016, 93

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小川 暁夫(OGAWA, Akio)  
関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号: 00204066

### (2) 研究分担者

大園 正彦(OZONO, Masahiko)  
静岡大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号: 10294357

宮下 博幸(MIYASHITA, Hiroyuki)  
関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号: 20345648

ルスターホルツ アンドレアス  
(RUSTERHOLZ, Andreas)  
関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号: 30411771

田中 慎(TANAKA, Shin)  
千葉大学・国際教養学部・教授  
研究者番号: 50236593

藤縄 康弘(FUJINAWA, Yasuhiro)  
東京外国語大学・大学院総合国際研究院・  
准教授  
研究者番号: 60253291